下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)説明・同意書

1. 検査の方法

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)は大腸の病気(炎症・ポリープ・がんなど)を発見し、適切な治療法を選択するために行う検査です。

2. 検査の方法

お尻から内視鏡を入れ、空気で腸を膨らませながら観察します。検査時間は20〜30分程度です。しかし、腸の癒着(腸と腸や腸と腹膜などがひっついてしまった状態)などで痛みが強い場合や、病変が見つかり、詳細な観察が必要と判断された場合、ポリープを切除する場合は、もう少し時間がかかることがあります。

大腸の動き(蠕動運動)を抑えるための鎮痙剤や、ご希望の方には鎮静剤(意識を落とし、眠ったり、「ボーッ」とした状態で検査を行うための薬)を使用し、苦痛の少ない状態で検査を受けて頂けます。しかし、持病(心臓病や緑内障、男性の方は前立腺肥大症など)により、これらの薬を使用できない場合もあります。

(持病をお持ちの方は、受付スタッフや看護師、医師にお申し出下さい。)

鎮静剤を使用して検査を行う際は、鎮静剤に関しての説明、同意書を別に頂きます。

検査中、病変が見つかった際は、必要に応じて下記の処置を行うことがあります。

1)色素散布(人体に害のない色素(インジゴカルミン)を散布し詳しく観察)

2)生検(組織の一部を採取し、細胞を顕微鏡で調べる検査)

3)切除可能なポリープの場合は、ご希望に応じてその場で切除します。

(ポリープの切除に関しては、別に説明・同意書があります。)

3. **検査の注意点**

脳梗塞や心臓病などの治療のために、**血液をサラサラにする薬**(ワーファリン・イグザレルト・バイアスピリン・プラビックスなど)を服用されている場合は、生検やポリープの切除を行えない場合があります。事前に受付スタッフや看護師、医師にご相談下さい。

4. **検査の危険性(偶発症)について**

検査は細心の注意を払い慎重に行いますが、下記の危険性(偶発症)が報告されています。

1)出血:0.002%未満(約45,000人に1人未満)

2)穿孔(腸に穴があくこと)：0.005%未満(約 20,000 人に 1 人未満)

3)ショック(血圧が低下し生命に危険が及ぶ状態)：0.0004%未満(約250,000 人に 1 人未満)

4)検査による死亡率：0.0004%未満(約250,000 人に 1 人未満)

このような状態になった場合は、止血処置、輸血、外科手術、あるいは蘇生などの緊急処置を必要とすることがあります。偶発症や何らかの緊急事態が生じた場合は、責任を持って対応致します。

5. その他

検査は上記の通りです。不明な点がございましたら、看護師、医師にお尋ね下さい。
十分ご理解頂けましたら以下の**同意書にご署名下さい。**
(本同意は、任意意思ですので検査直前までお取り消し頂けます。)

私は、下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)の目的、方法、注意点、危険性(偶発症)について上記の内容を理解、または医師からの説明を理解し、了承しましたので、検査、治療の実施、検査中に生じた緊急の処置を受けることに**同意**します。

年　　月　　日

患者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

家族・代理人氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿(続柄)＿＿＿